

『一生懸命』幻の新座市議会報告第120弾!



たかむらともや

7月15日夜、国会前

居ても立ってもいられなくて、国会に行ってきました。衆議院の特別委員会で「安保改正法案」が”強行採決”されそうだと聞いたからです。そして、本当に安倍政権は強行採決したのです。明治維新以後、これ程国民の声を無視した政権が今まであったでしょうか。



10万人

この日、国会前に集まった群衆は10万人。その中に僕もいました。驚いたのは若者が多かったということです。デモをリードする若者たちのエネルギーに感動しました。



群衆は叫んでいました。「安倍はやめろ!」「今すぐ辞めろ!」「憲法守れ!」「九条守れ!」「ファシストくたばれ!」「戦争反対!」「国民なめるな!」「安倍晋三から子どもを守れ!」「採決撤回!」

僕はタンバリンを鳴らしながら「安保 反対!」と大声で叫びました。

2015年8月31日発行



栗原1丁目公園で。8月2日(日)に予定されている「わいわい川遊び」ですが、こういう当たり前の平和がずっと続いて欲しいものです。

たかやんのプロフィール



本名たかむらともや。

東京青山生まれ。新宿区立西戸山中学校、都立石神井高校卒。北海道大学3年生の時に、突然教師を目指す。新座五中・六中・二中で子ども達と勉強とテニスに

燃える。「一生懸命」は年間244号書き続けた学級通信の名前。NHKの「おはよう広場」に尾木ママと一緒に出演。選挙前も選挙中も選挙後もこれからも”本当の無所属”好きな言葉は「教育は愛だ!」「一生懸命」「一石二鳥」「継続は力なり」好きな役者はハン・ヒョジュ、吉田羊、有村架純、佐々木蔵ノ介、佐藤健。

98年から「たかやん塾」塾長。

大好きなものは「テニス」と「子どもたちの笑顔」大嫌いなものは「弱い者いじめ」「煙草の煙」「安倍政権」「集团的自衛権」「TPP」「消費税」「日米安全保障条約」「日米地位協定」月に100キロ、年に1000キロ走るのが目標。身長175センチ、70キロ、体脂肪率16%

たかやんの応援団 で 検索

たかやんの連絡先 自宅 042-456-8869 携帯 090-6497-5737
mail:takayanchan@jcom.home.ne.jp 〒352-0033 新座市石神3-19-32-106

③ 憲法が泣いている！



7月17日の東京新聞の朝刊です。「戦争法案」と呼ばれることに安倍晋三は怒っていましたが、国民は「戦争することが可能になった国になることを」怒っているのです。何をどう逆立ちしたら、安保法案が「合憲」なのか・・・「成蹊大学にもう一度行って勉強して来い！」と言いたくなります。

僕は大学3年の時、どうしても教師になりたくなくて、水産学部のある函館から本学の札幌まで毎週通った経験があります。「北大100年の歴史の中で、そんなことをやった学生はいない」と言われましたが、やり切りました。教師になるには、「憲法」を履修しなければいけないのです。馬鹿な学生でしたが、憲法という単位だけは、もの凄く重く感じたものです。

国会議員になるには「憲法」を学ばなくてもいいのですが、議員になったからには「憲法」を学ばなくてはなりません。時の政権の解釈で、集団的自衛権が行使できるようなことは起きてはいけません。

③ 懲らしめなくてはならない！

気が付いたことがあります。どうやら、最近の出来事はみな繋がっているということです。

「郵政民営化」「消費税増税」「特定秘密保護法」「新派遣法」「安保関連法」「マイナンバー」「TPP」

どれもグローバル産業(アメリカは勿論、日本日本の大企業も)にとって有利なものばかりです。

郵政民営化を日本に要求したアメリカ政府には生保(アフラック)のロビー活動があったのでしょうか。

消費税増税はデフレ対策とは対極の政策です。これは政府の借金を減らすためでも、社会保障費に充てる訳でもなく、グローバル産業の法人税を下げる為の圧力があつたとみた方がよさそうです。「新派遣法」もグローバル産業には実に都合のいい法律ですし、TPPはその典型的なものです。国よりも企業が優先する、それがTPPの正体です。特定秘密保護法で国民に目隠しをし、安保関連法で戦争参加を可能にする。格差社会の米国を真似てマイナンバー制度を導入する。「在日米商工会議所意見書」に書かれている通りに農協改革を推し進めようとしている安倍晋三。われわれが「懲らしめなくてはならない！」のは新聞ではなく、安倍政権なのです。憲法の意味も分からない、憲法すら守れない政治家は存在してはいけないのです。今こそ、自民党をぶっ潰す時です。日本という国が安倍晋三に壊される前にぶっ潰しましょう！

③ 教育は愛だ！！

いじめによる自殺が止まりません。担任の先生と交換ノートをして、そこに愛がないと、子ども達は孤立してしまうのです。

”どんな子でも、決して独りにはしない！”そのことを先生たちには意識して欲しいです。子ども達に対する愛がないと、教師の言葉で子どもを孤立させてしまうこともあります。教師の表情や言葉がいじめの引き金になることすらあるのです。

「いじめは認識していなかった」という言い訳は、「私は教師として無能です」と言っているのと同じです。子ども達の服装や髪形に神経を尖らせるのではなく、表情や目の輝きに自然に目がいく教師が増えれば、いじめで死ぬ子はいなくなるでしょう。学校に先生の愛が溢れて欲しいものです。 ③

読み終わりましたら、お知り合いの方にさしあげてください m(_ _)m